

下野市立国分寺中学校

1 学校課題

研究主題

「思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の充実」
～生徒のよりよい学び合いを生かして～

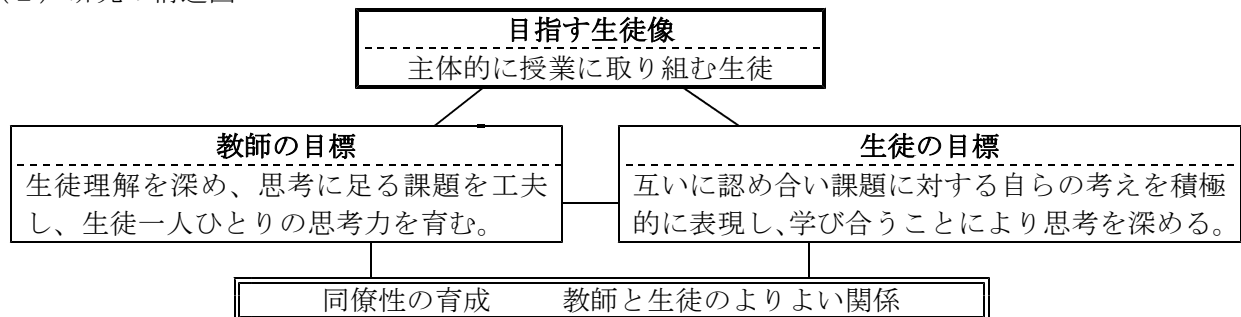
2 研究計画

(1) 研究主題設定の理由

本校では、生徒の思考力・判断力・表現力を育てるため、学習活動は勿論のこと、学校生活の色々な場面で話し合いや学び合いを取り入れて、生徒一人一人の良さを伸ばそうと考えている。これまでの研究で生徒に学び合いが定着し、学び合いを楽しみ、積極的に取り組む生徒が多いという手応えが感じられるようになってきた。また、授業や各種テストの結果から思考力の向上や「書く力」の向上も実感できつつある。その一方で、学び合いに参加できなかったり、表現することを苦手と感じたりする生徒がいることも事実である。また、とちぎっ子学習状況調査や全国学力・学習状況調査によると、上位層と下位層の学習に対する意識の開きが目立つ点も課題である。

教師には、授業を展開する上で「思考力、表現力を高めることができる課題の工夫」が必要である。また、「学びの共同体」の理念を取り入れた授業を展開するに当たって、形だけのものにならないように同僚性を育み、研修・研究を積み重ねていかなければならない。生徒も毎年入れ替わり、我々職員も定期異動によって入れ替わってきたため、「学びの共同体」の授業を全職員で共通理解し研究を続けることが何より大切なことであると考え、今年度も昨年度と同じ研究テーマで、より研究を深めたいと考えた。

(2) 研究の構造図



3 研究内容

(1) 学びを中心とするよりよい課題設定の工夫・改善の場面（一部抜粋）

教科	課題設定の工夫・改善の場面
国語	・ジャンプ課題設定の工夫（古典の現代語訳等） ・バタフライマップ活用の課題
社会	・資料読解に取り組む課題の工夫。
数学	・教科書の問題+αを準備 ・スペシャル問題、プチスペシャル問題を準備
理科	・基礎・基本を重視しつつ展開の中で話し合う場面、考える場面を設定し、ジャンプ課題も常に意識する。 ・生徒が悩む課題、本質的な問いを準備
英語	・自分の意見を英作文する課題。 ・英語字幕を自分たちで解釈する課題。
音楽	・アルトリコーダーのグループ合奏 ・カンツォーネ独唱（3年） ・鑑賞の授業
美術	・新たな鑑賞題材における課題設定
保健体育	・マット運動、バスケットボールのシュートの練習における課題設定
技術家庭	・自身の生活を見直し、教材と関連付ける課題の工夫
特別支援	・算数の合同な図形の課題 ・個別支援と4人の集団指導を組み合わせるジャンプ課題を工夫。

(2) 授業公開、授業研究会の実施

月	実施内容	参加者
6	・要請訪問 2年美術 6月8日(水) 指導者 青木孝浩先生(栃木県教育委員会副主幹)	全職員
	・S&U授業研究会 2年社会 6月14日(火) 指導者 松本 敏先生(宇都宮大学教授)	全職員
11	・S&U授業研究会 1年道徳 10月28日(金) 指導者 和井内良樹先生(宇都宮大学准教授)	全職員
	・校内授業研究会グループ研究会 11月16日(水) (「一人一授業」公開 11月1日～15日)	全職員
12	・自主公開授業研究会 2年理科 12月7日(水) 指導者 佐藤 学先生(学習院大学教授)	全職員 市内外教職員

- ・「学びの共同体」の理念を取り入れた授業を展開することを念頭に授業研究会を展開した。生徒の学び合いにふさわしいジャンプ課題、教師の振る舞い等を見取るため、参観ポイントを指定して生徒の活動する姿から我々教師が学ぶという形で研修を行った。
- ・佐藤学先生を指導者として実施した公開授業研究会では、本校職員に加え県内外から多数の参加者を迎えて実施することができ、今までの研究成果を振り返る良い機会となった。また、今後の研究の方向性として、我々教員の同僚生を高め、よりよいジャンプ課題を工夫したり、授業のコーディネート力を高めたりすることが大切であることも明確になった。

(3) その他(職員研修、各種調査分析等)

月	実施内容	参加者
4	・平成28年度学校課題の検討	学習指導部
	・職員研修「学びの共同体」の理念に基づいた模擬授業	全職員
	・学習集会(学びの作法、コの字型機の配置確認、模擬授業)	全校生徒、全職員
5	・学校課題の提案・研究計画書の再確認	研究主任他
7	・授業アンケート(A期)	全職員
8	・「学びの会」夏期研修会(足利市)参加・報告	1名参加
	・とちぎっ子学習状況調査結果分析、学力向上プラン作成	全職員
12	・授業アンケート(B期)	全職員
1~2	・校内研修 今年度の成果まとめ及び次年度の学校課題検討	全職員・学習指導部
3	・次年度の学校課題決定・学力向上レポート作成	学習指導部

- ・2回行った授業アンケートは、生徒が授業をどう感じているかを知り授業改善のヒントとなるもので、教師それぞれが自身の授業を振り返る良い機会となった。
- ・校外での研修への参加が少なく、先生達の「学び合い」についての理解が不十分であった。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査の結果から、昨年度に引き続き生徒が授業に意欲的に取り組んでいる様子が伺える。全体的に「活用」「思考・表現」に関する分野で県平均点より上回り、「グループなどで話し合い、自分の考えを深める事ができている」と考えている生徒の割合も多いことから、本校の研究が定着していると考えられる。また、学び合い学習の良さや理念を理解して授業改善に努めようと教員の意識も向上してきた。

(2) 今後の課題

「自分の考えや意見を友達の前で発表するのが苦手」「考えを文章にまとめて表すのが苦手」と考えている生徒の割合が多いこと、「自分に良いところがある」と答える生徒の割合が少ないことへの対策をより具体化することが必要である。また、我々教職員の取組に対する自己達成感が低いこともあり(振り返りアンケートによる)、生徒のよりよい学びを成立させるために、まず教職員自らが互いに学び合い、日頃からの研究・研修を充実させ授業力を高めていくことが必要である。